

2017年3月2日

イタリアン・デザイン・デー

初めに

イタリアでは、文化や芸術や哲学といった様々な分野にデザインが浸透しており、デザインが社会の重要な構成要因となっているといえます。デザインの現代性が、職人技術の伝統や実験的精神と融合し、デザイナーの個性が発揮されます。また、デザインの美しさは日々の消費財にこそ応用すべしという概念があるがゆえに、芸術とデザインが共存し、相互に利益を享受することができています。

イタリアにおけるデザイン文化の誕生は、ルネッサンス時代のレオナルド・ダ・ヴィンチのたぐいまれな才能に認めることができます。そして、近代のさまざまな芸術潮流や、デザイン・スクールが影響を及ぼしあいながら、豊かで多様性に富んだインダストリアル・デザインを育て上げてきました。特に第二次世界大戦後から、イタリア経済の成長に応じてデザインは急速な発展を遂げ、デザインが工業生産を牽引していくという、今までにない方向性を生み出したのです。イタリアではデザインが、発展のターゲットを独特な形で具現化し、それぞれの時代に、イタリア固有の特徴や成果を生み出してきました。

イタリアとは異なる文化を持つ人々、イタリアから地理的に遠くに住む人々も、イタリアのライフスタイルに魅力を感じています。その理由は、私たちの日常生活が美しく技術的にもすぐれたもので彩られていること、芸術と利便性が統合されていることにあるのではないのでしょうか。

イタリアデザインが大きな影響を及ぼし続けているのは、そのテーマやスキームが常に更新され続けているからでもあります。デザイナーの創造性や、メーカー側からの刺激が常に新しく注入されるおかげで、イタリア独自のスタイルを維持しています。それは、イタリア人以外の建築家やデザイナーもイタリアデザインに貢献している現在でも変わりません。

イタリアのデザインの世界で、諸文化の融合が行われているという事実は、グローバル化がもたらした良い例と言えるでしょう。生産プロセスに有利に働くばかりでなく、諸国民間の対話にも貢献できるからです。ひとつのアイデアやひとつのコンセプトが世界各地に広がり、普遍的な言語となり、世界中の様々な物語を紡ぎだすこととなります。ランプや椅子、鍋や自転車といった日用品を共有するたくさんの人たちの、日々のストーリーが紡ぎだされていくのです。

日用品を美しくデザインすることで、当たり前品の品々に魅力をもたせることができると発見したことが、イタリアのデザインの先見の明だったと言えるでしょう。

WHAT/何を

同じ日に世界の100か所で、100人の「イタリア文化大使」(デザイナー、企業家、ジャーナリスト、批評家、オピニオンリーダー、大学教授など)が、すぐれたデザインについて語ります。

HOW/どのように

パネルディスカッションでは、教育、情報、ビジネスなど各部門の関係者を招き、デザイン事業の進め方、慣習、プロセスなどについて議論してもらいます。

「文化大使」には、それぞれの国で聞いた優れた例（職人技術、技術革新、制作方法、素材など）を持ち帰るという課題が与えられています。それらを共有し、そこから新たなインスピレーションが得られるかを検討していくためです。

世界中で展開される「デザインの日」は、パネルディスカッションだけではありません。イタリアのデザインの世界を語るビデオも上映されます。

WHY/なぜ

今も、そして過去においても、イタリアのデザインには多様な要因（有形も無形も含めて）が含まれています。情報システムや交通の進歩とともに、これらの要素に変化はありましたが、イタリアデザインを著名にした特徴、イタリアデザインの本質は変わっていません。それは、デザインの新規性やオリジナリティー、素材のクオリティー、完璧なモノづくりの技、環境のみならず働く人や商品を使う人にもやさしい生産工程、パッケージングや宣伝に使われるハイレベルなグラフィックなどです。

また、いわゆる「スター・システム」という現象、広義の広報システムから生まれたこの現象は、メード・イン・イタリアにも現れましたが、この現象がイタリアのデザインを弱体化させるどころか、かえって国際市場でのイタリアのデザインの地位を確固たるものとししました。

デザインは、海外からの頭脳や人材をイタリアに引き付ける分野の一つです。それと並行して、デザイナー、それも若いデザイナーの間での競争は厳しいものとなり、海外に仕事を求めていく人たちも多くなります。一方で、マーケットが成長し、デザイン志向の企業が増えてきており、多くのデザイナーに仕事の可能性が出てきているのも事実ですが、単発的なプロジェクトや、単一の製品の開発に終わってしまうこともあります。またイタリアのデザインは、デザイナーだけに負うものではありません。システム（企画者、企業、教育、宣伝、職人技術、芸術など）として培われてきたものです。このシステムは巨匠たちの世代の下で成長し、プロセスや素材、テクノロジーの革新を梃に常に刷新を続けてきました。

それがために、デザインにおけるイタリアの地位はまだまだ揺るぎのないものであり、今でも、世界中の最良のデザイナー（新世代も含め）が仕事をしたいと願う国なのです。

SCOPE/範囲

イタリアデザインは360度を網羅しています。したがって家具、アクセサリ、照明、輸送（特に自動車）、スポーツ、食品、宝飾品などの様々な分野が対象となります。

AFTER/その後

この大イベントは、2018年の3月にも、さらに対象となる範囲を拡大して行う予定です。また2018年には、大展示会も予定されており、そこでは今回のイベントで集められた素材や経験を活かした、新たなデザインの展望も視野に入れています。